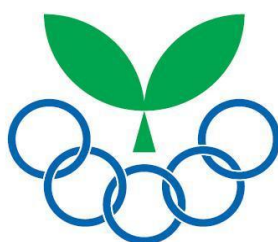


令和5年度 ジュニアリーダースクール報告書



日時：令和5年7月27日（木）～29日（土）
場所：山口県スポーツ交流村（光市）

山口県スポーツ少年団



学習『スポーツ少年団とは：和田指導員』

・どんな団体だろう？

スポーツ活動を中心に地域の中で活動し、子どもから大人まで、かかわる人みんなで協力して必要な役割を分担しあい、支え合って活動する団体です。

・誕生と目的は？

「一人でも多くの子どもたちにスポーツの喜びを」「スポーツを通じて子どもたちの心とからだを育てる組織を地域社会の中に!」と願い、1962年6月23日に創設されました。

・主な活動分野

主となるスポーツ活動だけでなく、単位団内・外の幅広い活動を行うことがよりふさわしいと考えます。レクリエーション活動や野外活動、文化・学習活動を通して単位団内での活動を豊かにするとともに、地域社会で活動する団体として地域の運動会や清掃活動、防災訓練、交通安全活動、奉仕活動などにも積極的に参加・協力してほしいと思います。



学習『リーダーの役割』

叶山指導員

・スポーツ少年団のリーダー像

スポーツ少年団の理念に基づき、ジュニアリーダーのリーダー像（望まれるリーダーの姿）として「スポーツの楽しさを理解し、団員に伝えることができる」「リーダーに求められる行動について考え、団の活動を支えることができる」といった2つを示しています。また、このようなリーダーを養成するために、具体的には「人とふれあう力」「考え方を深める力」「活動を営む力」の3つの力を育むことを重視しています。

<ジュニア・リーダーのリーダー像>



学習『リーダーに必要なスキル』

佐竹指導員

ジュニア・リーダー資質・能力

* スポーツ少年団とは

- ルールに沿ってスポーツを自ら楽しむことができる
- 行動範囲を拡大することができる
- 自己管理ができる

* リーダーの役割

- 「団」の視点で、全体に目を向ける
- 活動中の課題に気づく
- 安全に関する知識と理解

* コミュニケーションスキル

- 周囲の人との協力のもと、考えて行動できる
- 団員に配慮できる
- 身近な人とコミュニケーションがとれる



吉田松陰先生

夢なき者に理想なし、
理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし、
故に、夢なき者に成功なし。

『グループテーマディスカッション：大塚指導員』

4グループに分かれて、次のことについて話し合い・発表しました。
『スポーツ少年団活動において不安・困っていることがありますか？』

【活動面】

- ・上手くプレーできないと自信がなくなる
- ・みんなにどう思われているか不安
- ・言葉がひどい

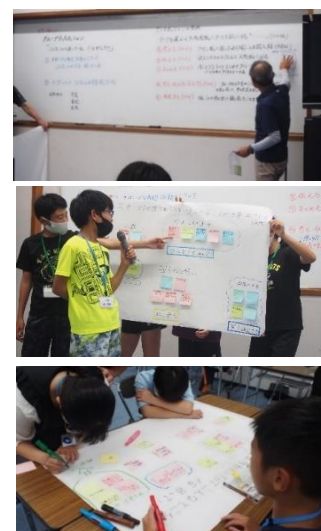
【生活面】

- ・返事をしない
- ・あいさつの声が小さい
- ・片付け・準備が遅い

- ・助け合う、努力する、話し合う
- ・団員も大人も言葉の使い方について再度考える機会もった方がよい

- ・普段の生活から気を付ける
- ・習慣化する
- ・できるようになるまで、伝え続ける

みんなが目指すスポーツ少年団とは？ ⇒ 不安・悩みのない楽しいスポーツ少年団



『仲間とのふれあい活動ACP：廣川・柳井指導員』

・ JSPO-ACPとは？

運動遊びや伝承遊びを通して、子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かすことにより、発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムです。

・ スポーツ遊び計画をつくってみよう

グループに分かれて、プログラムを作成し発表と実践を行いました。

「ルール説明を分かりやすく説明することが難しかった」と感じる団員が多かったようです。



海のスポーツ『サップ・ディンギー・バナナボート』



ジュニアリーダーズスクールに参加して

マリンスポーツ活動では、人とのかかわり方を学びました。グループディスカッションでは、積極的に意見をだし、話を深めるということを学びました。

渡邊優衣 3班

ACPでは、前に立ってみんなに説明する力、分かりやすく状況判断する力をつけることができました。そしてその力を団のみんなに伝え、よりよいスポーツ少年団活動にしたいです。

河村 奏 2班

グループディスカッションでは、話し合いの大切さを学びました。また、話し合いをすることによって意見が多く出るので、最初に考えていたのよりも良いものができます。これからは、リーダーとして、協力・話し合い、ゆずり合いを心がけて頑張りたいです。

大浴はな 2班

マリンスポーツでは、体を動かす楽しさや、今まで知らなかった海のスポーツを学ぶことができました。スポーツをすることで、みんなと仲良くなれると気づきました。

寺田彩乃 1班

ACPでは、みんなが楽しめるような遊びを班で考えた。みんなで協力し合いながら楽しむことを学びました。

小田真華 3班

グループディスカッションでみんなと悩みや不安を話し合い、ちゃんとみんなと話すことの大切さを学びました。

中村維斗 1班

ACPでスポーツ遊びの計画をするときに相手のことを考えることもリーダーには必要なスキルだと学びました。

徳本咲紀 2班

叶山指導員から

3年ぶりとなる2泊3日のジュニア・リーダースクール。県内から19名の団員が集い、研修が進められた。開校式では、緊張気味だった参加者は、時間とともに心が解きほぐされ、前向きな研修態度や仲間と共に考え・討論したことにより、閉校式では達成感と頼もしさを感じられる姿に変容していた。研修会内容を振り返り、一人ひとりがそれぞれの単位団や学校、そして地域の中で、より良いリーダーとして活躍してくれることを大いに期待する。



大塚指導員から

天候に恵まれた3日間。多くの体験と学習に取り組んだ参加者は大きく成長し満足した表情で修了証を受け取っていた。担当したグループディスカッションは、ワークショップ形式で実施し、短い時間にも関わらず「考え」「整理し」「まとめて」「発表する」という過程をすべての班が行い、質の高いディスカッションとなった。参加者の積極的な参画に感心した。



廣川指導員から

ACP活動の実践だけでなく、プログラムを考え発表することにも取り組みました。多くの子どもたちが積極的に取り組み、他のグループの良いところを発見し、この気づきが次のグループへの改善点にもつながったのがみられました。理解度・実践能力が大変高かったと感じました。また、食事の時に『栄養の話』をさせて頂きましたが、食の大切さを少しでも感じてもらえると嬉しく思います。



柳井指導員から

2泊3日のプログラムを、生活面からサポートさせて頂きました。わずかな期間ではありましたが、一つ屋根の下で寝食を共にした子どもたちは、自然と心を通わせ、仲間と関わることの心地良さと大切さを感じていたように思います。真夏のスポーツ交流村で過ごした3日間は、きっとかけがえのない心の風景として子どもたちの心に残り、今後の団活動を充実させる糧となるであろうと確信しました。一期一会、この邂逅に感謝です。

和田指導員から

「みどりの朝風」「若いぼくら」の2曲は、今から60年前、スポーツ少年団創設時に生まれました。受講者のみなさんと改めて歌って、歌詞の中の「若い」という言葉からどんなことが連想できたのでしょうか。「若い」からこそ、いろいろな経験や人と出会い、自分の生き方を見つけていくエネルギーがあふれています。スポーツ少年団活動に限らず、地域の文化やスポーツ活動でも、チャレンジできる人であってほしいと願っています。私もそのつもりで、共に学んでいきますから。

佐竹指導員から

新しく誕生した19名のジュニアリーダーの皆さん、暑い中にも、充実した2泊3日だったと思います。また、準備から運営まで、講義、グループワークや暑さ対策も含めた生活面での臨機応変な対応等、参加者に寄り添った活動をされた指導者・スタッフと2名のリーダーの皆さんの「プレイヤー・センタード」の視点からの真摯な取り組みに深く感謝します。

19名の皆さんは、スクールで体験した多くの内容を基礎とし、今後も多くの経験を積み重ね、失敗を恐れず、これからのスポーツ少年団を支える存在として成長するとともに、「学び続ける姿勢」を継続し、将来は「シニアリーダー」そして「スタートコーチ」「コーチ」として、スポーツ少年団の理念の実現に向けて前進してほしいと思います。

「ジュニアリーダースクールに参加されたみなさんへ」

ジュニアリーダースクールでの経験を基にして、それぞれの単位団で信頼されるリーダーとして活躍することを期待しています。

山口県スポーツ少年団事務局

